

行動科学

感性情報科学への誘い

感性情報科学とは、感性すなわち人の感じる「気分」を数値で客観的に取り扱おうとする学問分野です。また、感性工学は、感性と商品のデザインなどの関係を表すルールを見つけて、感性に訴える商品デザインなどを実現しようとするものです。感性は、当然ながら人によってさまざまであり、このようなばらばらの数値同士を結びつけるのが統計学です。今回の講義では、本研究室のある年の卒論をもとに、感性工学の考え方とそのために用いる統計学について概説します。

感性情報科学と感性工学

感性情報科学とは、感性、すなわちある対象に対して人の感じる「気分」を数値の形で客観的に取り扱おうとする学問分野です。また、感性工学は、感性と商品のデザインなどの関係を表すルールを見つけて、感性に訴える商品デザインなどを実現しようとするものです。感性は、当然ながら人によってさまざまであり、このようなばらばらの数値同士を結びつけるのが統計学です。

図1は、感性工学の考え方を図で示したものです。例えば、礼服のように「フォーマル」な印象を受ける布を作りたい、という需要があるとしましょう。しかし、どのように見える布ならば「フォーマル」に見えるのかがわかりません。そこで、いろいろな布を用意して、被験者に「どのくらいフォーマルだと感じるか」をアンケート調査します。これを**官能評価**といいます。一方、布の見え方について客観的な測定をするために、画像処理の手法を使って色合いや細かさ（空間周波数）などを測定します。そして、これらの「感性的数値」と「客観的な数値」の間を結びつけるルールを統計的手法によって見つけ、「客観的な測定の結果がどんな布であれば、フォーマルであるという印象を受けるのか」を記述します。このような「関係を見つめる統計的手法」は**多変量解析**とよばれています。このルールがわかれば、そのような客観的な測定結果が得られるような布を作ることによって、感性的な需要をみたすことができます。

参考ウェブサイト

浅野晃の公的ウェブサイト(<http://kuva.mis.hiroshima-u.ac.jp/~asano/>)

2004年前期の講義・行動科学「感性情報科学への誘い」(講義中スクリーンで示した資料が載っています)
(<http://kuva.mis.hiroshima-u.ac.jp/~asano/Kougi/04s/BS/>)

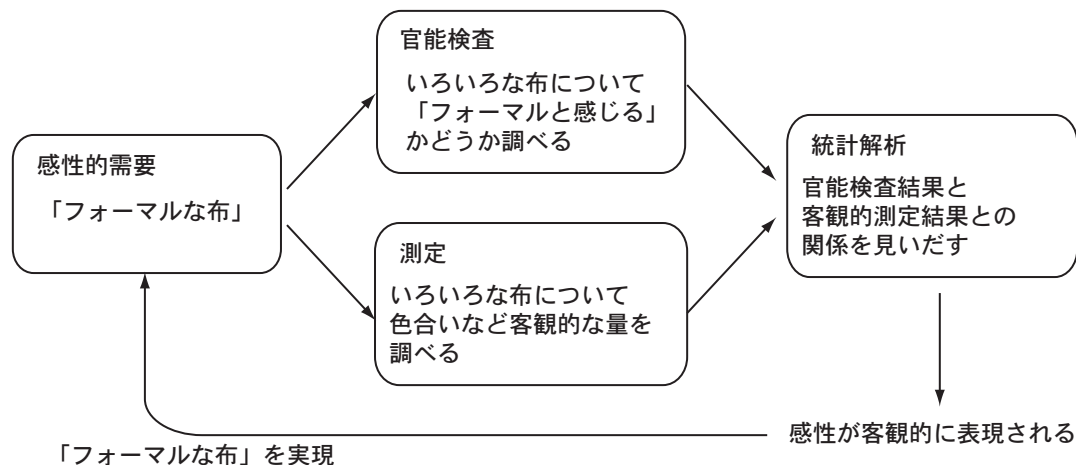


図1. 感性工学の手法